

製品名: サイクリン A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09578**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNA1
別名	CCNA1; Cyclin-A1
遺伝子 ID	8900.0
SwissProt ID	P78396
免疫原	抗血清はヒトサイクリン A1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 411-460

背景

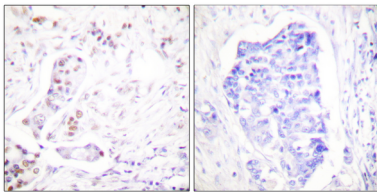
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

ンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。この遺伝子によってコードされるサイクリンは、精巣と脳、およびいくつかの白血病細胞株で発現することが示されており、主に生殖細胞系列の減数分裂細胞周期の制御に機能すると考えられている。このサイクリンは CDK2 キナーゼと CDC2 キナーゼの両方に結合し、これら 2 つのキナーゼ活性 (1 つは S 期に、もう 1 つは G2 期に現れる) を生じ、細胞周期の別々の機能を制御している。このサイクリンは、Rb ファミリータンパク質、転写因子 E2F-1、p21 ファミリータンパク質などの重要な細胞周期調節因子に結合することがわかった。多発生段階:発現は G1 期初期に増加し、S 期および G2/M 期に最高レベルに達します。機能:G1/S 期(開始)および G2/M 期(有糸分裂)の遷移における細胞周期の制御に関与している可能性があります。主に生殖系列の減数分裂細胞周期の制御に機能し、さらに一部の体細胞の有糸分裂細胞周期の制御にも機能する可能性があります。類似性:サイクリンファミリーに属します。類似性:サイクリンファミリーに属します。サイクリン AB サブファミリーです。サブユニット:CDK2 および CDC2 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成します。サイクリンサブユニットは、複合体に基質特異性を付与します。CDK4 および CDK5 には結合しません (in vitro)。サイクリン A1-CDK2 複合体は、転写因子 E2F-1 および RB タンパク質と相互作用します。CDK2、CABLES1、CCNE1 との複合体として存在する (類似性による)。INCA1 および KLHDC9 と相互作用する。組織特異性:精巣で非常に高いレベル、脳では非常に低いレベルに存在する。骨髄性白血病細胞株にも存在する。、

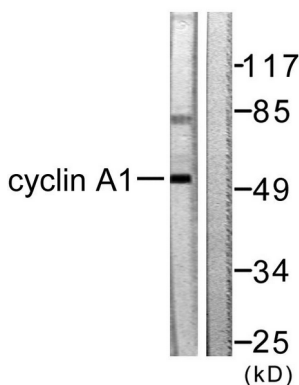
研究分野

AMPK

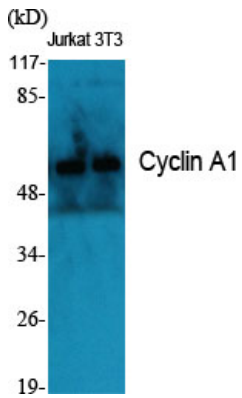
画像データ



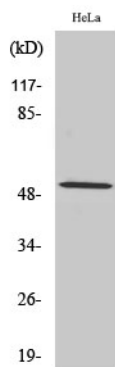
サイクリン A1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



SKOV3 細胞ライセートのサイクリン A1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈のサイクリン A1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 2000 希釈のサイクリン A1 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析